

他の専門部会への提案等について ～企画部会における意見交換の概要～

No.	提案元部会	提案先部会	提案の概要	県の取組状況	部会長の見解	関係部局
1	健康長寿・地域共生社会部会	産業振興部会	企業等に対し、高齢者や障害者などが共に働く上での理解と配慮、雇用の分野における障害者に対する差別の解消を促し、全ての人々が能力を發揮できる職場環境の整備等をより積極的に進めるべきでないか。	70歳以上の高齢者が就業できる企業の割合は、本県が全国1位となっており、県内企業による高齢者の受入環境の整備が進む中、県では、高齢者への就業機会の提供等を行うシルバー人材センターの活動を支援しているほか、同センターの派遣就業について一定の業種・職種における就業時間の要件緩和を今年4月から実施するなど、高齢者の就業機会の拡大を図っている。 また、障害者が県内で就職し、安定した就労が継続できるよう、秋田労働局と連携し、採用職域の拡大と求人票の提出について、経済団体への要請を実施している。	働いている人が生き生きと仕事をしているかという点が非常に重要だと思っている。ある工場に見学に行ったときに、非常に楽しそうに仕事をしている高齢者の方がいて、素晴らしいことだと感じた。そうした受入環境ができていないかが非常に重要なポイントであるため、雇用する側の問題等もあるだろうが、そのような企業等が増えていくといいと思っている。 人手不足が一層深刻化している中、外国人労働者の受入だけではなく、まずは地域の方がそれぞれ持っている能力を最大限に活用することが、地域の活力にも繋がると考えている。	産業労働部
2	産業振興部会	健康長寿・地域共生社会部会	多様な人材の活躍により人手不足の解消を図るため、障害者や高齢者等のサポートの更なる充実を図り、持っている能力を最大限に發揮できるような環境の整備に取り組むべきではないか。	障害者については、障害者就業・生活支援センターや「就労定着支援事業」により、本人の意思と能力に十分配慮しながら、就業や就労継続のための生活支援を行っている。 高齢者については、高齢となってもその能力を發揮し、就労やボランティア等を通じて地域で元気に活躍できるように、市町村と連携して健康づくりや介護予防に取り組むとともに、高齢者団体の活動への支援等により、社会参加の促進を図っている。 なお、介護分野においては、元気な中高年齢者を対象に、介護の仕事や職場への理解を深めるための入門的研修を実施し、高齢者の就労促進を図っている。	県が説明したとおり、高齢者や障害者は働く意欲を持っている方が多く、また、今後の人口減少社会における社会や地域のあり方として、高齢者や障害者の方々にもその一員として積極的に役割を担っていただくことが期待されている。 そのため、誰もが本人の意欲や能力に応じて就労又は社会参加をすることができるよう、産業労働部や労働局などとも連携して、必要な環境整備を進め、年齢や障害の有無などにかかわらず長く生き生きと活躍できる全員参加型の社会を築いていくことが大事だと考えている。	健康福祉部
3	人・もの交流拡大部会	健康長寿・地域共生社会部会	東京オリンピック・パラリンピックを契機として、県民が身近にスポーツを楽しむ機会が増えることが見込まれることから、生涯スポーツの実践として、健康食品や製薬会社等の民間企業のノウハウも取り入れながら、健康づくりのためのプログラムを作成するなど、健康づくりに関するスポーツの効用を県民に周知していくことが必要ではないか。	平成29年度に設置した「秋田県健康づくり県民運動推進協議会」は、自治体、経済・労働団体、保健医療団体のほか、生涯スポーツ関係団体を含む民間の非営利団体、健康食品関連会社や製薬会社を含む一般企業など、多種多様な団体で構成されている。 県では、この協議会を健康づくり県民運動の推進主体に位置付け、会員の主体的な取組を推進するとともに、会員相互の連絡調整や情報交換等を行っている。 このような取組を通じて、各企業が持つ健康づくりのノウハウを生涯スポーツの普及にも活かせるような機会を提供していくことが必要と考えている。	健康づくりとスポーツは相互に関係しており、県の説明した方向性で進めていくべきと考えている。 なお、秋田県健康づくり県民運動推進協議会においても、全世代型の健康づくりが大切だと話しているところである。 例えば、本県の子どもの肥満出現率は、全国と比較して高い傾向にある。小児期は健康のためのよい習慣を身に付けさせる重要な時期でもあり、観光文化スポーツ部、教育庁と健康福祉部が連携して、子どもの頃から運動習慣が身につくような取組を進めていくと、子どもの健康づくりに効果的だと思う。	健康福祉部